第24講　大正時代Ⅱ・昭和時代Ⅰ

1　超然内閣の再登場

①加藤友三郎(ともさぶろう)内閣（海軍，1922年〜23年）

立憲政友会から支持を得て，官僚・貴族院中心に組閣された中間内閣。首相の病死により総辞職。

1922年　日本共産党結成

　　　　シベリア撤兵完了

1923年　石井・ランシング協定破棄

---

②第二次山本権兵衛内閣（海軍，1923年）

普通選挙を求める犬養毅（革新倶楽部(クラブ)）が文部大臣，後藤新平が内務大臣として入閣する中間内閣。虎の門事件により総辞職。

1923年　**関東大震災**（９月１日＝組閣の前日）

☆**戒厳令**(かいげんれい)・１カ月間のモラトリアム〔支払猶予令(しはらいゆうよれい)〕を実施。

☆戒厳令下で，一般民衆の結成した**自警団**(じけいだん)による“朝鮮人狩り”が行われる（＝**朝鮮人虐殺事件**）。

亀戸(かめいど)**事件**

☆戒厳令下の東京で，川合義虎(かわいよしとら)ら10人の社会主義者らが，警察署内で警備にあたっていた軍隊により殺害される。

甘粕(あまかす)**事件**

☆戒厳令下の東京で，無政府主義者**大杉栄・伊藤野枝**(のえ)らが，憲兵の**甘粕正彦**大尉に絞殺(こうさつ)される。

虎の門事件

☆**摂政宮裕仁**(ひろひと)**親王（のちの昭和天皇）**が無政府主義者**難波大助**(なんばだいすけ)に狙撃(そげき)される。

☆無事ではあったが，責任を取り内閣は総辞職，難波は翌年大逆罪で処刑。

↓↓↓

政府は無政府主義･共産主義に対する警戒を，一層強めることとなった。

---

③清浦奎吾内閣（枢密院，1924年）⇒超然内閣

元老の松方正義と西園寺公望は，政党と距離を置く人物を選ぶため，山県有朋（すでに死去）直系の**枢密院議長**であった**清浦奎吾**を首相に推した。

☆**貴族院・官僚勢力を背景に組閣**，普通選挙実施を方針とし，民衆・政党の懐柔をはかる。

☆床次竹二郎の**政友本党（立憲政友会から分裂）**を与党とし，陸相・海相を除く全閣僚を貴族院から選出する**超然内閣**を組閣。

1924年　中国で第一次国共合作

第二次護憲運動

２　第二次護憲運動（1924年）

①経過

護憲三派（憲政会〔加藤高明（たかあき）〕・立憲政友会〔高橋是清〕・革新倶楽部（クラブ）〔犬養毅（いぬかいつよし）〕）が倒閣運動を開始。

☆「清浦内閣打倒」「普選断行」「行財政整理」「貴族院・枢密院改革」などを掲（かか）げ，議会解散・総選挙にもち込む。

☆**第一次護憲運動に比べ，民衆運動は盛り上がらず。**

---

②結果

政友本党を味方とした清浦奎吾内閣は総選挙に大敗，**護憲三派連立の第一次加藤高明内閣が成立。**

☆加藤高明は，大日本帝国憲法下において選挙結果により首相となった唯一の例。

３　憲政の常道─二大政党時代─

衆議院の最大多数党(失脚した場合は次位の党)**の総裁に組閣の大命が下り，政党内閣を組織する慣習。**

☆**立憲政友会**と**立憲民政党〔もと憲政会〕**の二大政党による組閣が８年間続いた。

①第一次加藤高明内閣(護憲三派，1924年～25年)

第二次護憲運動後，総選挙に圧勝した護憲三派が連立して成立。

☆まもなく，憲政会と立憲政友会の対立から護憲三派の協調が破れ総辞職。

☆革新倶楽部は立憲政友会に吸収される。

1924年　小作調停法

婦人参政権獲得期成同盟会結成

1925年　日ソ基本条約

☆日本は北樺太からの撤兵と引きかえに，同地方の油田の半分の開発権を獲得。

陸軍４個師団削減

陸軍の田中義一が立憲政友会総裁となる

治安維持法制定

☆**国体(＝天皇制)の変革と私有財産制度の否認を目的とする結社の組織者と参加者を処罰**(＝共産主義・無政府主義の弾圧)。

☆日ソ国交樹立による共産主義思想の波及を防ぎ，普通選挙法成立による労働者階級の政治的影響力の増大に備えることが目的。

普通選挙法制定

☆**満25歳以上の男子〔全人口の20.8%**，約1200万人**〕に選挙権**，満30歳以上の男子に被選挙権を与える。中選挙区制を採用。

日本労働組合評議会発足

五・三〇事件

---

②第二次加藤高明内閣(憲政会，1925年～26年)

立憲政友会と対立して総辞職した加藤高明が，政友本党と提携して**憲政会単独で再組閣。**

☆首相の病死のため総辞職。

---

③第一次若槻礼次郎内閣（憲政会，1926年～27年）

加藤高明の病死により憲政会総裁を継いだ若槻礼次郎が組閣。

☆金融恐慌の収拾を試みるが，幣原喜重郎外相の協調外交に不満をもつ枢密院の反対により挫折，総辞職する。

1926年　労働農民党結成

労働争議調停法

大正天皇崩御により昭和と改元

☆摂政の裕仁親王が即位（昭和天皇）。

1927年　**金融恐慌**

---

④田中義一内閣（立憲政友会，1927年～29年）

立憲政友会総裁となっていた，陸軍・長州閥の長老田中義一が組閣。

☆田中義一首相は外相も兼任，対中国強硬〔積極〕外交を展開するが，張作霖爆殺事件の処理で昭和天皇の不信を買い総辞職。

1927年　金融恐慌の収拾

第１次山東出兵

立憲民政党の結成

☆憲政会と政友本党が合同。総裁は浜口雄幸。

東方会議

ジュネーブ海軍軍縮会議

1928年　**最初の普通選挙実施**

三・一五事件

第２次山東出兵

済南事件

第３次山東出兵

張作霖爆殺事件〔満州某重大事件〕

緊急勅令による治安維持法改悪

特別高等課〔特高〕を道府県にも設置

パリ不戦条約

1929年　四・一六事件

---

⑤浜口雄幸内閣(立憲民政党，1929年〜31年)

憲政会と政友本党が合同した立憲民政党の内閣が成立。幣原外交と井上緊縮財政が二本柱。

☆ロンドン海軍軍縮条約調印で，軍令部・枢密院・右翼・立憲政友会などの反感を買い(**統帥権干犯問題**(とうすいけんかんぱん))，**浜口雄幸首相が東京駅で狙撃され総辞職。**

1929年　犬養毅が立憲政友会総裁となる
　　　　世界恐慌
1930年　**金輸出解禁**
　　　　ロンドン海軍軍縮条約
　　　　☆**統帥権干犯問題**の浮上(ふじょう)。
　　　　昭和恐慌(〜31年)
　　　　浜口雄幸首相狙撃事件
1931年　三月事件

---

⑥第二次若槻礼次郎内閣(立憲民政党，1931年)

狙撃された浜口雄幸にかわり立憲民政党総裁となった若槻礼次郎が再度組閣。満州事変に対しては不拡大方針をとるが軍部はこれを無視。閣内(かくない)不統一により総辞職に追い込まれた。

1931年　万宝山(まんぽうざん)事件
　　　　中村大尉(たいい)事件
　　　　柳条湖事件により**満州事変**勃発
　　　　十月事件

---

⑦犬養毅内閣（立憲政友会，1931年～32年）

立憲政友会総裁となっていた犬養毅が組閣。満州事変に対し軍部の行動を追認したが，満州国建国には反対。

☆五・一五事件で犬養毅首相が暗殺され，戦前の政党政治は終焉を迎える。

1931年　**金輸出再禁止**

1932年　第１次上海事変

血盟団事件

満州国建国宣言

五・一五事件

４　戦後恐慌（1920年）

①原因

ヨーロッパ諸国の復興⇒その商品がアジア市場に再登場

☆輸出不振・生産過剰に陥(おちい)り，日本の株式市場が大暴落。

---

②経過

A　輸出不振・輸入超過（1919年より）

株価が暴落，銀行が閉鎖・休業に追い込まれる。

B　輸出を支えてきた生糸・綿糸相場が半値以下に暴落

製糸業・紡績業の操業時間短縮により，失業者が増大。

C　重化学工業の苦難

ヨーロッパ諸国が復興し，輸入品が増加。

---

③結果

恐慌に対し，政府は日本銀行などを通じて大企業を中心に多額の救済融資(ゆうし)を実施。

↓↓↓

このため，企業の合理化や財界の整理が十分進まず，生産を回復してきたヨーロッパ諸国に対抗することが困難になり，不況は長期化した。

A　中小企業・成金の没落

企業の集中・独占資本の強大化＝財閥の強大化。

B　**慢性的不況の定着**

1917年の金輸出禁止以来，**金本位制に復帰できず，欧米に取り残される。**

C　労働運動の階級闘争主義化

５　震災恐慌（1923年）

①原因

関東大震災（1923年９月１日午前11時58分）

A　規模

マグニチュード7.9〔震度７〕，地震と火災により東京市・横浜市の大部分は廃墟と化し，被害は１府６県に及ぶ。

B　被害（総額60億円以上）

死者・行方不明者10万人以上，全壊・流出・全焼家屋57万戸（こ）以上。

C　混乱

あ　**戒厳令**（かいげんれい）の発令

い　在日朝鮮人（数千人）・中国人（数百人）の殺傷

☆住民が組織する**自警団**の手で“朝鮮人狩り”が行われる（**＝朝鮮人虐殺事件**）。

☆その背景には，日本の植民地支配に対する抵抗運動への恐怖心と，民族的な差別意識があったとみられる。

う　**亀戸**（かめいど）**事件・甘粕事件**など左翼勢力の大弾圧

---

②経過（第二次山本権兵衛内閣の対策）

A　緊急勅令による**１カ月間のモラトリアム**〔**支払猶予令**（しはらいゆうよれい）〕

B　**震災手形割引損失補償令**（てがたわりびきそんしつほしょうれい）

日本銀行の特別融資（ゆうし）（約４億3000万円）と，それによる日本銀行の損失に対する政府の補償（１億円）。

---

③結果

A　決済(けっさい)不能の**震災手形**が残存

1926年の段階で，未決済額は約２億円にのぼる。

B　**東京復興のための膨大な国家支出**

帝都復興院の設置，総裁には**後藤新平**内相が就任。

C　**東京復興のために輸入が急増**

国際収支は大赤字となり，外貨も著しく減少。

D　**インフレーションの発生**

不況下にインフレが発生し，スタグフレーション状態となる。

E　その他

企業集中・カルテル結成・資本輸出(在華紡(ざいかぼう)など)の進行。

６　金融恐慌（1927年）

①**原因**⇒背景に不況の慢性化（震災手形に限らず銀行経営が不良化）

1927年，憲政会の第一次若槻礼次郎内閣による震災手形善後処理法案の不手際。

☆**片岡直温蔵相**の失言（震災手形を有する一部の不良銀行名を明かす）。

---

②**経過**

A　第一段階

預金者の不安から**取付け騒ぎ**が起き，東京渡辺銀行などの二流銀行が休業・倒産。

B　第二段階

あ　**鈴木商店の破産による台湾銀行の休業**，取付け騒ぎにより十五銀行〔華族銀行〕なども休業。

い　第一次若槻内閣，**台湾銀行救済のための緊急勅令案**を提出。

☆日本銀行からの特別融資〔非常貸付〕をはかる。

う　**憲政会の協調外交〔幣原外交〕に対する不満から，枢密院が否決。**

☆枢密顧問官の伊東巳代治ら。

え　内閣は総辞職，**立憲政友会の田中義一内閣（高橋是清蔵相）**が誕生。

C　第三段階

あ　田中内閣の**高橋是清蔵相**，**３週間のモラトリアム〔支払猶予令〕**を発令。

☆銀行も２日間休業。

い　**日本銀行の非常貸出と特別融資，台湾銀行の救済が決定。**

☆全国的に広がった金融恐慌はようやく収拾。しかし通貨が膨張してインフレーション（物価高）が拡大。

---

③結果

A　**五大銀行(ビッグ=ファイブ)(三井・三菱・住友・安田・第一)**に預金が集中

B　企業集中・カルテル結成・資本輸出の進行

☆反面，大企業や農村からはじき出された過剰労働力を得て中小企業の数は増加。

C　**財閥支配の強化**

☆商業〔流通〕・金融・産業の各資本が合体，**コンツェルン**形態をとる。

☆財閥と政党の結託(けったく)が強化。**三井と立憲政友会**，**三菱と立憲民政党**〔もと憲政会〕など。

---

④“出口のないトンネル”⇒1920年代

ヴェルサイユ・ワシントン体制下で展開された1920年代の日本経済は，電力関連の重化学工業の発展はみられたものの，**慢性的不況**を続けた。再三発生する恐慌に対し，政府は日本銀行券を増発し救済政策をとってきたが，それは一時しのぎにすぎず，大戦景気(1915年～18〔19〕年)で過大に膨張した経済界の再編は進まなかった。

☆国際競争力不足とインフレのため輸入超過は増大し，1917年以来の金輸出禁止が続く中で，外国為替(かわせ)相場は動揺と下落を繰り返した。

☆多くの産業分野で企業集中，カルテル結成，資本輸出の動きが強まり，**財閥**はこの時期に金融・流通面から産業支配を強め，**政党**との結びつきも強めていった。

７　不況下の社会運動

①社会主義勢力の政界進出

A　**無産政党**の結成

1926年〜，普通選挙の実施に対応する**合法的社会主義政党**。

☆当時の社会情勢から，社会主義を称することが憚(はばか)られたための呼称。

☆農民労働党(1925年，浅沼稲次郎(いねじろう)ら)は，日本共産党と関係があるとして，即日結社禁止処分となる。

B　**労働農民党**の結成と分裂(1926年)

関東大震災時の迫害と，治安維持法・普通選挙法制定という状況に直面した社会主義運動〔左翼(さよく)運動〕は，改良的・協調的な**社会民主主義的**潮流(ちょうりゅう)〔**右派**〕と，革命的・急進的な**共産主義的潮流**〔**左派**〕とに分かれ，両者の対立が激しくなった。

あ　**労働農民党**(**左派**，大山郁夫・山本宣治(せんじ)ら)

☆革命路線をとる共産党系の勢力が強い。

い　日本労農党(中間派)

う　**社会民衆党**(**右派**，安部磯雄・片山哲(てつ)ら)

☆議会主義・国民政党路線をとる。

C　**普通選挙の実施(1928年)**

有権者は約４倍(約1240万人)となり，**無産政党から８名が当選**。

☆非合法の日本共産党が，公然と活動を開始。

②田中義一内閣の弾圧

A　**三・一五事件(1928年)**

共産党員の一斉(いっせい)検挙。労働農民党･日本労働組合評議会などを解散させる。

B　緊急勅令による**治安維持法改正(1928年)**

死刑・無期懲役(ちょうえき)を追加。また，協力者も処罰可能となった。

☆さらに**1941年**には**予防拘禁(こうきん)制度**が適用される。

C　**道府県警察にも特別高等課〔特高〕を設置(1928年)**

無政府主義・共産主義・社会民主主義などの思想運動の取り締まりと弾圧を業務とし，スパイ活動や拷問(ごうもん)も行った。

D　山本宣治暗殺事件〔神田事件〕(1929年)

治安維持法改正に反対し議会で奮闘したことから，労働農民党の代議士山本宣治が右翼に暗殺される。

E　**四・一六事件(1929年)**

共産党員を再び一斉検挙。非合法の日本共産党は大打撃を受けた。

8　金解禁〔金輸出解禁〕(1930年)

①背景

金解禁とは，輸入品の代金支払いのために正貨(せいか)(地金(じきん)や金貨)の輸出を認めることをいい，国際間の金の移動が自由になることで為替相場安定の働きがある。また，金解禁は紙幣の兌換(だかん)を再開し**金本位制に復帰**することを意味した。

A　**第一次世界大戦後の国際競争力不足による輸入超過**

B　為替相場の動揺と低落

1917年の金輸出禁止で金本位制から離脱し，金本位制の自動調節作用(物価上昇⇒輸入増加⇒正貨〔金〕流出⇒通貨収縮⇒物価下落)がなくなったことから，為替相場が動揺。

C　**欧米列国(米・独・英・伊・仏)の金本位制復帰**

日本が為替相場を安定させ，輸出を増加させるためには，金解禁(＝金本位制への復帰)が必要不可欠となる。

D　財政膨張・通貨量増大(＝インフレーション)の激化

1920年代は，恐慌の連続にも関わらずインフレとなっていた(＝スタグフレーション)。

---

②浜口雄幸(おさち)内閣(大蔵大臣＝井上準之助(じゅんのすけ))の経済政策

1929年に成立した**立憲民政党**の**浜口雄幸内閣**は，**蔵相に前日本銀行総裁の井上準之助を起用**し，財政を緊縮して物価引下げをはかり，産業合理化を促進して国際競争力を強化することをめざした。

☆さらに旧平価による金解禁を断行し，外国為替相場の安定と**経済界の抜本的な整理**をはかった。

A　**緊縮財政〔デフレ政策〕**

物価引下げをはかる。

B　**産業合理化**

賃下げ・人員整理・労働強化により，企業の利潤増大と国際競争力の強化をはかる。

☆**生産性が低く国際競争力のない不良企業を整理・淘汰(とうた)**。

C　**金解禁(1930年)**

外国為替相場の安定をはかる。

D　**重要産業統制法（1931年）**

金解禁の影響で輸出が大不振であることから，指定産業での不況カルテルの結成を容認して，統制経済の先駆(さきが)けとなった。

---

③金解禁（1930年１月）

A　**目的**

為替相場の安定と貿易の振興

B　経過

1929年９月　金解禁予告

10月　**世界恐慌の発生**

☆**ニューヨーク（米）のウォール街における株式大暴落。**

1930年１月　**金解禁実施**

☆**旧平価の100円＝49.85ドル（円切上げ）で強気に解禁。**

☆当時の相場は100円＝46.5ドル前後。円高をもたらし日本の輸出品を割高にし，デフレと不況を招く恐れが強い旧平価解禁をあえて選択したのは，円の国際信用を落としたくないという配慮に加え，不良企業を整理・淘汰して日本経済の体質改善をはかるという目的があった。

C　結果

あ　**輸出の減少と輸入の激増**

円高もあり，国内の物価水準が国際的な水準に比べると高かったため。

い　**金の大量流出**

金輸出再禁止を予測した財閥のさかんな円売り・**ドル買い**が，流出に拍車(はくしゃ)をかけた。

う　**不況が深刻化し失業者が増大**

アメリカ向け生糸・アジア向け綿糸価格が暴落，企業の倒産・生産の縮小があいつぎ，**昭和恐慌（1930年〜31年）**となった。

え　**1931年12月に金輸出再禁止（犬養毅内閣，高橋是清蔵相）**

同年，イギリスが金本位制を離脱し，各国がこれに倣(なら)ったため。

９　昭和恐慌（1930年～31年）

①原因⇒背景に不況の慢性化

1929年10月24日，**ニューヨーク**のウォール街における**株式大暴落**。

☆ヨーロッパ各地に投資されていたアメリカ資本は引き上げられ，**世界恐慌**が資本主義世界全体に波及。

☆社会主義国のソ連は無関係で，国力を蓄(たくわ)えていった。

---

②経過

輸出不振(ふしん)（とくにアメリカ向け生糸(きいと)），**浜口雄幸内閣の井上準之助蔵相**の**金解禁**による**正貨(せいか)の大量流出**。

☆1917年以来の金解禁に備え，**産業合理化・デフレ政策〔緊縮財政〕**をとっていた。

☆さらに**旧平価**（円切り上げ）で強気に解禁したので，**輸出は減少・輸入は激増**，これに**財閥の**円売り・**ドル買い**が金流出に拍車(はくしゃ)をかけた。

あ　**都市**

工場の倒産・操業短縮により**失業者が増大**。

い　**農村⇒農業恐慌**に陥(おちい)る

小作料も引き上げられたが，米価の暴落（米騒動後の植民地米移入の増加・1930年の“豊作(ほうさく)貧乏”など）もあり，寄生地主でさえ苦しんだ。

☆翌1931年には一転して東北・北海道は大凶作に見舞われた。

☆生糸価格の下落による繭(けんまゆ)価は暴落。不況のため兼業機会も少なくなったうえ，失業者の帰村が重なり，東北・関東・甲信越(こうしんえつ)の農村はとくに大打撃を受け，**欠食児童・娘の身売り**が目立った。

---

③農村対策（1932年～34年）

時局匡救(じきょくきょうきゅう)事業と称して公共土木事業を実施，農民を日雇い労働に雇用して現金収入の途(みち)をつくった。さらに政府は**農山漁村経済更生(こうせい)運動**を始め，産業組合の拡充などを通じて村民を結束させ，「自力更生」をはかった。

---

④結果

あ　農村や都市中小企業の没落(ぼつらく)・衰退

小作争議・労働争議が激増。家賃・電気料金・ガス料金の引下げ要求運動や，零細小売商人の反百貨店運動も頻発。

☆しかし，一連の社会運動は，厳しい弾圧と無産政党の分裂により次第に衰退していった。

い　**財閥支配の進展**

重要産業統制法（1931年）により，資本の集中・独占が進む。

う　**政党や財閥を攻撃する声が強まる**

金解禁時における財閥の円売り・ドル買いや，無策な政党と財閥の結託などが理由。

補講：大正・昭和初期の文化

1　大正・昭和初期の文化の特色

近代的自我の発見と**文化の大衆化**⇒文化の国民的普及＋都市化

☆背景として，義務教育の徹底と民衆の政治的意識の高まりがあげられる。

２　思想界の多様化

①“大正デモクラシー”の思想

A　**吉野作造**の**民本主義**

B　**美濃部達吉**の**天皇機関説**

C　石橋湛山（たんざん）の小日本主義

D　マルクス主義の台頭（たいとう）

---

②社会主義思想の研究

A　**森戸辰男**（もりとたつお）（東大助教授）

論文「**クロポトキンの社会思想の研究**」で編集発行人の大内兵衛（ひょうえ）（東大助教授）とともに東大を追われ，大原社会問題研究所に参加（1920 年，森戸事件）。

B　**河上肇**（はじめ）　（京大教授）

マルクス主義経済学を研究。『**貧乏物語**』『自叙伝』など。

C　高畠素之（たかばたけもとゆき）

わが国で初めてマルクスの『資本論』を翻訳（ほんやく）。

D　**野呂栄太郎**（えいたろう）

岩波書店『**日本資本主義発達史講座**』を編集。1930 年代に日本資本主義論争を展開した，**講座派**の中心人物。

☆その他，羽仁五郎（はにごろう）・服部之総（はっとりしそう）・山田盛太郎（もりたろう）ら。

E　猪俣津南雄（いのまたつなお）

山川均（ひとし）らと雑誌『労農』を創刊。1930 年代に日本資本主義論争を展開した，櫛田民蔵（くしだたみぞう）らと並ぶ**労農派**の中心人物。

---

③超国家主義思想〔ウルトラ・ナショナリズム〕

猶存社（ゆうぞんしゃ）の結成（**1919 年，北一輝・大川周明ら**）

☆内紛から 23 年に解散。

３　教育の拡充

①大学令（1918年，原敬（たかし）内閣）

総合大学である九**帝国大学**（東京・京都・大阪・北海道・東北・名古屋・九州・京城（けいじょう）・台北（たいほく））以外にも，単科大学や公立・私立大学の設置が認められた。

☆同年の改正高等学校令により，全寮制と外国語重視を特色とする高等学校（３年制）の増設が進められた。

☆1920年代には中学校・高等女学校（それぞれ４年制）の生徒数も急増した。

---

②自由教育運動の展開（大正後期～）

子供のもつ可能性･自発性の伸長をはかる，児童中心主義を掲げた新教育運動。

☆沢柳政太郎（さわやなぎまさたろう）の成城小学校，羽仁（はに）もと子の自由学園，西村伊作（いさく）の文化学院など。

---

③綴方（つづりかた）教育運動の展開（昭和初期～）

型にはまった作文教育を改め，日常生活重視の立場からありのままを作文させる教育が実施された。

☆鈴木三重吉（みえきち）の雑誌『赤い鳥』などが影響を与える。

４　学問の発達

①自然科学

A　医学

野口英世（ひでよ）

☆**黄熱病**の研究，梅毒スピロヘータの純粋培養（ばいよう）。

B　物理学・金属工学

あ　**本多光太郎**

☆ドイツへ留学後，**KS磁石鋼**を発明。鉄鋼研究所初代所長。

い　三島徳七（とくしち）

☆MK磁石鋼の発明。

C　電気通信工学

八木秀次（ひでつぐ）

☆超短波（たんぱ）用の八木アンテナを発明。

D　研究所の設立

あ　**北里研究所**　(1914年)⇒北里柴三郎ら

い　**理化学研究所**(1917年)

☆欧米諸国に対抗しうる物理学・化学の研究を目的に，財界からの寄付金・国庫補助・皇室下賜（かし）金により設立。

う　航空研究所　(1918年)⇒東大に付属

え　鉄鋼研究所　(1919年)⇒東北大に付属

お　**地震研究所**　(1925年)⇒東大に付属

---

②人文・社会科学

A　哲学

『**善の研究**』の**西田幾多郎**（きたろう）（京大教授），『三太郎の日記』の阿部次郎，『古寺巡礼』『風土』『人間の学としての倫理学』の和辻哲郎（わつじてつろう）ら。

B　**民俗学**

『**遠野物語**』（とおの）の**柳田国男**（やなぎたくにお），南方熊楠（みなかたくまぐす），折口信夫（おりくちしのぶ）ら。

☆柳田国男は民間伝承・習俗の調査・研究を通じて，常民（じょうみん）（＝無名の民衆）の生活史を明らかにしようとし，日本民俗学の祖とされる。

C　日本史学

『神代史（しんだいし）の研究』の**津田左右吉**（そうきち）（早大教授）ら。

D　東洋史学

白鳥庫吉（くらきち）・内藤虎次郎（とらじろう）〔湖南（こなん）〕ら。

☆それぞれ邪馬台国九州説・近畿説を主張。

E　**法学**

天皇機関説の**美濃部達吉**，『**刑法読本**（どくほん）』の**滝川幸辰**（ゆきとき）（京大教授）ら。

F　政治学

民本主義の**吉野作造**ら。

G　**経済学**

『**貧乏物語**』の**河上肇**，マルクス『資本論』を紹介した福田徳三（とくぞう），『資本論』翻訳（ほんやく）の高畠素之（たかばたけもとゆき），論文「**クロポトキンの社会思想の研究**」の**森戸辰男**（もりとたつお），論文「日本資本主義発達史」の**野呂栄太郎**（のろえいたろう）ら。

５　大正・昭和初期の文学・ジャーナリズム

①反自然主義の諸派（明治時代末期～）

A　**耽美派**

退廃的・享楽的・官能的な美の創造を追求。

あ　**永井荷風**　『あめりか物語』『ふらんす物語』『**腕くらべ**』

☆慶應義塾の教授に迎えられ，雑誌『三田文学』を創刊。

い　**谷崎潤一郎**　『**刺青**』『**痴人の愛**』『**細雪**』

☆戦後まで長く作家活動を続ける。

う　佐藤春夫　『田園の憂鬱』『都会の憂鬱』

B　**白樺派**

人道主義・理想主義・個人主義の立場から，自我の尊厳を主張。**雑誌**『**白樺**』。

あ　**武者小路実篤**　『**友情**』『**人間万歳**』『お目出たき人』，戯曲『**その妹**』

☆宮崎県などに理想郷「新しき村」を設立。

い　**志賀直哉**　『**暗夜行路**』『和解』『城の崎にて』『小僧の神様』

う　**有島武郎**　『**或る女**』『**カインの末裔**』『生れ出づる悩み』

え　里見弴　『多情仏心』

お　倉田百三　戯曲『出家とその弟子』，評論集『愛と認識との出発』

か　**柳宗悦**　**民芸**（無名の職人に作られた実用品）を広める民芸運動

☆哲学者・美術評論家。

---

②新現実主義（大正時代～）

A　**新思潮派**

反自然主義の立場から，現実を理知的にとらえ技巧的に表現。雑誌『新思潮（第三次・第四次）』。

あ　**芥川龍之介**　『**羅生門**』『鼻』『河童』『或阿呆の一生』

い　**菊池寛**　『**恩讐の彼方に**』『忠直卿行状記』『真珠夫人』，戯曲『**父帰る**』

☆雑誌『文藝春秋』を創刊し，芥川賞・直木賞を創設。

う　山本有三　『女の一生』『路傍の石』

B　奇蹟派〔新早稲田派〕

自然主義文学を継承，“私小説”を完成させる。

あ　葛西善蔵　『子をつれて』

い　宇野浩二　『蔵の中』

③プロレタリア文学(大正末期～昭和初期)

雑誌『種蒔く人』創刊(1921年)により，労働者〔プロレタリアート〕の生活に根差し，階級闘争の理論に則した作品を描く**プロレタリア文学運動**が始まる。

A　**葉山嘉樹**　**『海に生くる人々』**『セメント樽の中の手紙』
☆**雑誌『文芸戦線』**に寄稿。

B　**徳永直**　**『太陽のない街』**

C　**小林多喜二**　**『蟹工船』**『党生活者』『一九二八年三月十五日』
☆徳永と小林は**雑誌『戦旗』**(ナップ〔全日本無産者芸術連盟〕の機関紙)に寄稿。ナップはのちコップ〔日本プロレタリア文化連盟〕に発展。

D　宮本百合子　『貧しき人々の群』『播州平野』

---

④芸術派(大正末期～昭和前期)

A　**新感覚派**

リアリズムを否定，反プロレタリア文学の立場から，文学の技法や表現の革命をめざす。雑誌『文芸時代』。

あ　**横光利一**　『日輪』『機械』

い　**川端康成**　**『伊豆の踊子』『雪国』**
☆戦後，日本人初のノーベル文学賞を受賞。

B　新興芸術派

あ　井伏鱒二　『山椒魚』『黒い雨』

い　梶井基次郎　『檸檬』

C　新心理主義

あ　堀辰雄　『風立ちぬ』

い　伊藤整　『火の鳥』，翻訳『チャタレイ夫人の恋人』(ローレンス)

D　その他

中島敦　『山月記』『李陵』

林芙美子　『放浪記』

---

⑤大衆文学（大正時代〜）

A　**中里介山（かいざん）**　『**大菩薩峠（だいぼさつとうげ）**』

B　吉川英治（よしかわえいじ）　『宮本武蔵（むさし）』

C　大佛次郎（おさらぎじろう）　『鞍馬天狗（くらまてんぐ）』『赤穂浪士（あこうろうし）』

D　**直木（なおき）三十五**　『南国太平記』

E　江戸川乱歩（らんぽ）　『二銭銅貨』

☆探偵〔推理〕小説。

---

⑥児童文学（大正時代〜）

A　**鈴木三重吉（みえきち）**　**雑誌『赤い鳥』**

B　**宮沢賢治**　**『注文の多い料理店』『銀河鉄道の夜』**

---

⑦近代詩

A　**高村光太郎**　**『道程（どうてい）』『智恵子抄（ちえこしょう）』**

B　**萩原朔太郎（さくたろう）**　**『月に吠（ほ）える』**

C　室生犀星（むろうさいせい）　『抒情（じょじょう）小曲集』

D　宮沢賢治　『春と修羅』

E　三好達治　『測量船』

F　中原中也（ちゅうや）　『山羊（やぎ）の歌』『在（あ）りし日の歌』

G　立原道造　『暁（あかつき）と夕（ゆうべ）の詩』

---

⑧短歌

A　島木赤彦（しまきあかひこ）　歌集『氷魚（ひお）』⇒アララギ派

B　**斎藤茂吉（もきち）**　**歌集『赤光（しゃっこう）』**⇒アララギ派

C　若山牧水（ぼくすい）　歌集『海の声』

---

⑨ジャーナリズム

大正末期には，『大阪朝日新聞』と『東京朝日新聞』，『大阪毎日新聞』と『東京日日新聞』系列のように，発行部数100万部を超える新聞が現れた。

1912年　立川(たつかわ)文庫の刊行開始⇒『猿飛佐助(さるとびさすけ)』など
1913年　『経済雑誌ダイヤモンド』⇒一般投資家向け
1914年　雑誌『新思潮』(第三次)
　　　　雑誌『**少年倶楽部(クラブ)**』⇒大日本雄弁会講談社
1916年　雑誌『婦人公論』
1917年　雑誌『主婦之(の)友』
1918年　雑誌『赤い鳥』
1919年　雑誌『我等(われら)』
　　　　雑誌『解放』⇒吉野作造・福田徳三ら
　　　　総合雑誌『**改造**』⇒山本実彦(さねひこ)らの改造社
1921年　雑誌『種蒔く人』
1922年　『**週刊朝日**』『**サンデー毎日**』⇒初の週刊誌
1923年　雑誌『文藝春秋』
1924年　雑誌『文芸戦線』
1925年　**大衆娯楽雑誌**『**キング**』⇒大日本雄弁会講談社，100万部超え
　　　　ラジオ放送開始⇒東京・大阪・名古屋
1926年　**円本(えんぽん)**『**現代日本文学全集**』刊行開始⇒**改造社**
　　　　日本放送協会〔**NHK**〕設立
1927年　『**岩波文庫**』刊行開始⇒岩波茂雄(しげお)の岩波書店
　　　　雑誌『労農』
1928年　雑誌『戦旗』
1931年　有声映画〔トーキー〕の登場
1935年　雑誌『日本浪漫派(ろうまんは)』⇒亀井勝一郎・保田与重郎(やすだよじゅうろう)ら

６　大正・昭和初期の芸術

①美術展覧会

帝国美術院美術展覧会〔帝展〕(1919年)

帝国美術院が設置され，文展が発展・改組。1937年から再び文部省主宰となる(＝新文展)。

☆戦後の1946年，**日本美術院展覧会〔日展〕**となる。

---

②代表的日本画家

A　**竹久夢二**(たけひさゆめじ)　**『黒船屋』**
B　土田麦僊(つちだばくせん)　『大原女(おはらめ)』
C　速水御舟(ぎょしゅう)　『炎舞(えんぶ)』
D　鏑木清方(かぶらぎきよかた)　『築地明石町(つきじあかしちょう)』
E　前田青邨(せいそん)　『洞窟(どうくつ)の頼朝』
F　小林古径(こけい)　『髪』『犬と遊ぶ』
G　安田靫彦(ゆきひこ)　『黄瀬川(きせがわ)の陣』
H　**上村松園**(うえむらしょうえん)　『序の舞』『夕暮(ゆうぐれ)』⇒女性初の文化勲章受章

---

③代表的西洋画家

A　中村彝(つね)　『エロシェンコ氏の像』『少女』
B　**岸田劉生**(りゅうせい)　『**麗子像**(れいこ)(麗子微笑(びしょう)など)』
　☆フューザン会のち**春陽会**(しゅんようかい)の中心的人物。
C　**安井曽太郎**(そうたろう)　『**金蓉**(きんよう)』
　☆セザンヌ(仏)に師事，**二科会**に参加。
D　**梅原竜三郎**(りゅうざぶろう)　『**紫禁城**(しきんじょう)』『長安街』『北京秋天(しゅうてん)』
　☆ルノアール(仏)に師事，**二科会**に参加。
E　萬鉄五郎(よろずてつごろう)　『もたれて立つ人』

---

④代表的彫刻家

A　**高村光太郎**(こうたろう)　**『手』『鯰(なまず)』**
B　**平櫛田中**(ひらぐしでんちゅう)　**『転生(てんしょう)』『五浦釣人(いづらちょうじん)』**

---

⑤代表的建築家

ライト　　　**『旧帝国ホテル』**

☆アメリカ人の世界的建築家。

７　大正・昭和初期のその他芸術

①新劇

A　**芸術座**（1913年）

島村抱月・松井須磨子ら

☆松井須磨子がトルストイ『復活』を好演。劇中歌『カチューシャの唄』も大流行。

B　**築地小劇場**（1924年）

小山内薫・土方与志ら

☆**新劇運動**の中心となった“演劇の実験室”。昭和初期以降はプロレタリア演劇運動の拠点となる。

---

②宝塚少女歌劇〔宝塚歌劇団〕（大正時代〜）

箕面有馬電気軌道（のち阪神急行電気鉄道〔阪急〕）の**小林一三**が設立。

☆小林は，乗客増加をはかるため沿線で住宅地開発を進めるとともに，遊園地や温泉，女性のみからなる歌劇団などの娯楽施設を経営し，主要駅の大阪梅田では初の**ターミナルデパート**である阪急百貨店を開業した。

---

③大衆演劇（大正時代〜）

沢田正二郎らが**新国劇**を結成，『国定忠治』『月形半平太』などの剣劇を上演。

☆歌舞伎と新劇の中間の“国民演劇”をめざした。

---

④浅草オペラ（大正時代）

繁華街として賑わった浅草六区で始まった日本的オペレッタ（娯楽性が強く軽い内容のオペラ）。学生・青年層に熱狂的なファンを生んだが，関東大震災（1923年）で衰退。

---

⑤軽演劇（昭和初期）

モボ〔モダンボーイ〕・モガ〔モダンガール〕登場後のエロ・グロ・ナンセンスの風潮に乗り，喜劇役者**榎本健一〔エノケン〕**，古川緑波〔ロッパ〕が活躍。

---

⑥プロレタリア演劇運動（昭和初期）

築地小劇場を拠点に，プロレタリア文学の高揚と連動。

---

⑦漫画（昭和前期）

田河水泡『のらくろ』，島田啓三『冒険ダン吉』などが少年達の人気を集める。

---

⑧代表的音楽家

洋楽の普及がめざましく，小学校の唱歌以外にも，新たに民間で創作された童謡がさかんに歌われるようになった。また，**蓄音機**とレコードの登場により歌謡曲が流行した。

A　**山田耕筰**

作曲家・指揮者。『この道』『からたちの花』など多数。わが国初の交響楽団である日本交響楽協会を育成。東京フィルハーモニーでも指揮を執った。

B　近衛秀麿⇒近衛文麿の異母弟

山田耕筰に学び，新交響楽団（現在のNHK交響楽団）を創設。

C　**三浦〔柴田〕環**

ソプラノ歌手。わが国初のオペラ上演『オルフォイス』や『蝶々夫人』などで世界的に有名。

D　宮城道雄

箏曲家。尺八奏者の吉田晴風と協力して新日本音楽を創始。洋楽を取り入れて『春の海』などを作曲。

E　中山晋平

作曲家。『カチューシャの唄』『ゴンドラの唄』『東京行進曲』『東京音頭』など。

F　西条八十

作詞家。『東京行進曲』『東京音頭』など。

G　古賀政男

作曲家。ギター伴奏の“古賀メロディー”は歌謡曲の主流となった。『影を慕いて』『酒は泪か溜息か』など。

８　大衆文化の諸相

第一次世界大戦終結などによる世界的な民主主義的風潮の中で，義務教育の徹底と民衆の政治意識の高まりを背景として，**都市部を中心に文化が国民的普及を果たす。**

☆女性の進出も著しく，バスの車掌〔バスガール〕・タイピスト・電話交換手・看護婦・教師などの**職業婦人**や新興の知識階層として**大衆文化**の発展を支えた。

☆一方で，都市と農村，大企業と中小企業との間の格差が問題となり，二重構造とよばれた。消費支出が増加し，大衆消費社会的な状況が現れたが，一般農家や中小企業労働者の生活水準は低く，都市の大企業に勤務する**俸給生活者〔サラリーマン・新中間層〕**との間で格差は拡大した。

①衣

洋服の着用が一般化。

---

②食

スプーン・ナイフ・フォークを使用する“洋食”の流行。家庭では茶の間の卓袱台を囲んでの食事や団欒がみられた。

☆コロッケ・カツレツ・ビフテキ・オムレツ・カレーライス〔ライスカレー〕など。

---

③住

都心部から延びる郊外電車の沿線には，新中間層向けに和洋折衷の**文化住宅**が建てられた。また，都心では東京駅前の丸ビル〔三菱丸の内ビルジング〕など，鉄筋コンクリート造のオフィスビルも登場した。

---

④施設

A　農村部も含め**電灯**が一般家庭に普及

B　都市で水道・ガスの供給事業が本格化

C　東京に地下鉄が開通

☆1927年，上野〜浅草間がアジア初の地下鉄。

D　東京に**円タク**（市内料金１円均一のタクシー）が登場

E　各地に**乗合**（のりあい）**自動車〔バス〕**が登場

F　その他

☆**デパート〔百貨店〕**・遊園地・カフェ・ミルクホール・ビアホール・ダンスホールなどが登場。

---

⑤ラジオ・映画

A　東京・大阪・名古屋で**ラジオ放送開始（1925年）**

☆翌年，これらの放送局を統合し**日本放送協会〔NHK〕**を設立。

☆満州事変以降，出征兵士の安否を気遣い契約者が100万人を突破。

B　日活（にっかつ）や松竹（しょうちく）などの映画会社が国産映画の製作に乗り出す

☆無声映画〔サイレント〕から，1930年代には有声映画〔トーキー〕へ。（活動）弁士は職を失う

---

⑥スポーツ

A　ラジオの実況放送の影響もあり学生スポーツが人気

☆全国中等学校優勝野球大会（1915年〜），東京六大学野球（1925年〜，とくに早慶戦が人気）。

B　第５回ストックホルム大会（1912年）からオリンピックへ参加

☆講道館柔道の創始者嘉納治五郎（かのうじごろう）が日本人初のIOC〔国際オリンピック委員会〕委員となる。

☆次のベルリン大会は第一世界大戦で中止。その後，アントワープ大会（1920年，初のメダル獲得），パリ大会（1924年），**アムステルダム大会**（1928年，三段跳び織田幹雄（みきお）・200ｍ平泳ぎ鶴田義行（つるたよしゆき）が**初の金メダル**），ロサンゼルス（1932年），ベルリン大会（1936年，200ｍ平泳ぎ**前畑秀子**（まえはたひでこ）が**女子初の金メダル**）に参加。

C　東京オリンピック（1940年）が決定していたが日中戦争の影響で返上

第 24 講　確認テスト

1　1923年，第二次山本権兵衛内閣を総辞職に追い込んだ，無政府主義者による皇太子狙撃事件とは？

①亀戸事件　②甘粕事件　③虎の門事件　④五・三〇事件

2　第二次護憲運動の「護憲三派」としてふさわしくない政党を一つ選べ。

①立憲政友会　②政友本党　③革新倶楽部　④憲政会

3　日ソ基本条約・治安維持法・普通選挙法が制定された年は？

①1917年　②1923年　③1925年　④1928年

4　昭和と改元された年の内閣とは？

①清浦奎吾内閣　②加藤高明内閣
③第一次若槻礼次郎内閣　④田中義一内閣

5　金融恐慌時，第一次若槻礼次郎内閣の台湾銀行救済のための緊急勅令案を否決したのは？

①昭和天皇　②枢密院　③大審院　④元帥府会議

6　三井財閥と結託を続けた政党とは？

①立憲政友会　②立憲民政党　③労働農民党　④社会民衆党

7　1928年の三・一五事件で共産党員を一斉検挙し，緊急勅令により治安維持法を改悪した内閣とは？

①加藤高明内閣　②第一次若槻礼次郎内閣
③田中義一内閣　④浜口雄幸内閣

8　昭和恐慌(1930年～31年)時の用語として不適切なものを一つ選べ。

①ドル買い　②欠食児童　③娘の身売り　④昭和維新

9　岩波書店『日本資本主義発達史講座』を編集した，講座派の中心人物とは？

①森戸辰男　②大内兵衛　③河上肇　④野呂栄太郎

10　渡米してロックフェラー研究所員となった，黄熱病の研究で有名な細菌学者とは？

①北里柴三郎　②志賀潔　③秦佐八郎　④野口英世

11　次のうち，プロレタリア文学雑誌ではないものを一つ選べ。

①『白樺』　②『種蒔く人』　③『文芸戦線』　④『戦旗』

12　“日本一面白くて為になる”をめざし，大日本雄弁会講談社が創刊した100万部超えの大衆娯楽雑誌とは？

①『中央公論』　②『改造』　③『キング』　④『日本浪漫派』

解答

1	③	2	②	3	③	4	③	5	②
6	①	7	③	8	④	9	④	10	④
11	①	12	③						